ホンダ FU600/FU800

取扱説明書

お買いあげありがとうございました。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
本機は、取扱いに優れ汎用性に富んだロータリ　ミニ耕うん機です。
安全、快適にお使いいただくために正しい取扱いをしなければなりません。

トレーラー走行はできません。
（小型特殊自動車の認定を受けていません。）

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

30770651
00X30-770-6510

Ⓜ (HC) 2009309

1 安全にお使いいただくために

ロータリ　ミニ耕うん機は正しく取扱ってください。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な農作業のために次のことを必ずお守りください。

●安全のために知っておきたいこと

★日常点検、整備を忘れずに。(作業機を上げて点検する場合は、必ず落下防止を行ってください。)

★火災の恐れがある場所では作業しない。また格納の場合、火の気のないところにおくなど火災予防に十分注意してください。

★子供を乗せたり、近寄らせないこと。

★工具を適切に管理し、正しく使用する。

★衣服や頭髪、手ぬぐいなどが巻込まれないよう、服装には十分注意する。

★ガソリンが漏れないよう、車載運搬時には燃料コックを閉じる。

●作業を始める前に

★必ず点検、整備を行う。

- 点検作業は、通行の妨害及び危険等のない平坦で安全な場所で行う。
- 屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意する。
- 装着する作業機に合わせて適正バランスを保つ。
- 指定以上のフロント　ウェイトを装着しないこと。過大なウェイトを取付けると、本機の故障の原因になる場合がある。

★防護装置の保全

- 防護装置は正しく取付けられているか。
- 点検、整備のため取外された防護装置は正しく復元され、確実に締付けられているか。

●作業中の注意

★作業中は、まわりに十分注意し、関係者以外の人を近づけない。

★傾斜地では、転倒を防ぐため速度や旋回などに十分注意する。

リサイクルペーパーを使用しております。

これだけはぜひ守りましょう

★作業場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過など、転倒には十分注意する。
★作業場への出入り、溝または畔越えを行うときは、アユミ板等を使用してください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなく危険です。
★作業中は、動力伝達装置や回転部に接触しないよう特に注意する。
★土塊や石などがとび散る作業においては傷害に注意する。
★作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行う。
★休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて水平な安定した場所で確実に固定する。
★ガソリン点検補給時は必ずエンジン停止。火気厳禁。
　・ガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動する。

●作業が終ったら

★次の作業のために機械の点検、整備を行う。
★作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行い、前傾及び後傾状態で放置しない。
★トラック等への積降し時は、燃料コックを"止"にし、転倒や落下に注意する。
★洗車時には空気清浄器(エア　クリーナ)のカバー締付け部付近、電装品、および気化器に水がかからないように注意してください。これらの部分に強く水をかけると内部に水が侵入し、本機不調の原因となる場合がある。
★保管は、安定した場所で安全な状態で行う。
★エンジン上部に物をのせるのは厳禁。
　・特にマフラ(消音器)は熱くなっているので、可燃物は絶対にのせないでください。
★屋外に放置する場合は、エンジンが冷えてからボディ　カバー等をかけ、本機に雨水がかからないようにする。

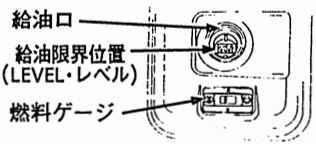
2 エンジンをかける前に点検しましょう

★点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行ってください。

ガソリンの点検

点　検

本機を水平にし燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置(LEVEL)までガソリンがあるか点検します。すくない場合は補給してください。



補　給

使用ガソリン：無鉛(レギュラ　ガソリン)

タンク容量：FU600：2.6 ℓ　FU800：4.5 ℓ

- キャップを外し、給油口の給油限界位置(LEVEL・レベル)まで補給してください。
- キャップは補給後完全にはめ込みいっぱいにまわしてください。

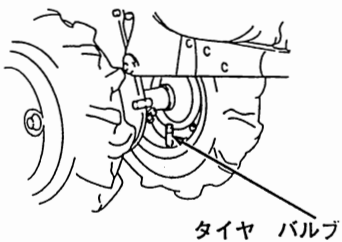
注意

- **火気厳禁**
- **必ずエンジンをとめて補給してください。**
- **燃えやすいものは近くに置かないでください。**
- ガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動する。

タイヤ空気圧の点検

点　検

空気圧が正規か確認してください。空気圧が高過ぎるとけん引力が不足し、低すぎるとタイヤの寿命を短かくします。
空気圧が正規でない場合は必ず正規の空気圧にしてください。



補　給

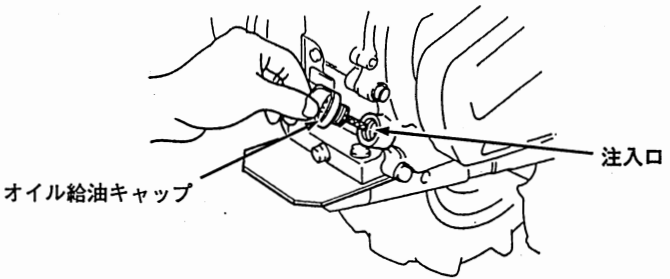
バルブ　キャップを取外し、タイヤ　バルブより空気を注入する。

タイヤ　サイズ：3.50−7　　標準空気圧：1.2 kg/cm²

エンジン　オイルの点検

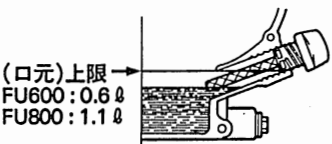
点　検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



補　給

- 少ない時には新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は 6 頁参照）補給後、キャップを手で完全に締付けてください。



- 推奨オイル：　ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)
  ②ウルトラ-U〈2 輪車用〉(SAE10W-30)
  またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

注意

- **低温時(気温10°C以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U〈2輪車用〉SAE 10W-30のオイルをご使用ください。**
- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが洩れることがあります。**

エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

〈交換時期〉　初回：20時間目、以後：100時間運転毎。また、稼働期前には必ず交換してください。

〈推奨オイル〉　ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用(SAE30)
②ウルトラ-U〈2輪車用〉(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

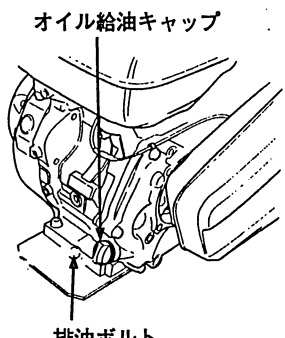
注意

- 低温時(気温10°C以下)では、ホンダ純正ウルトラ-U〈2輪車用〉SAE 10W-30のオイルをご使用ください。

〈規定量〉　FU600：0.6 ℓ
FU800；1.1 ℓ

〈交換のしかた〉

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。エンジンが暖かいときに行うと、エンジン内に残る量が少なく早く抜けます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、シリンダバレルに確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



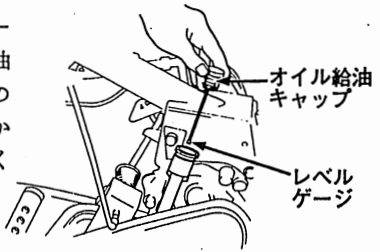
注意

- エンジン停止直後にオイルを抜く時は、オイルの温度が高いのでやけどに十分注意してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。

変速機オイルの点検

点　検

オイル　レベルの確認は、レベル　ゲージのオイルをふきとり、再度オイル給油キャップを押し込んで、給油キャップのレベル　ゲージの先端にオイルがつくか点検します。すくない場合は補給してください。



補　給

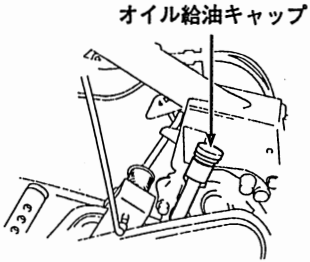
使用オイル:新しいエンジン　オイル

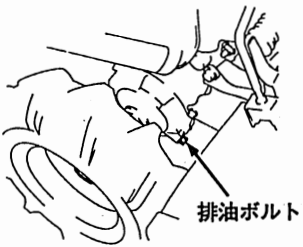
オイル容量：2.4 ℓ

- 給油キャップを外し、レベル　ゲージの先端にオイルがつくまで補給してください。
- 補給後、給油キャップを完全に取付けてください。
- オイルの汚れがひどい時は交換してください。

〈交換のしかた〉

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. オイルが完全に抜けたら、排油ボルトを確実に締付けます。

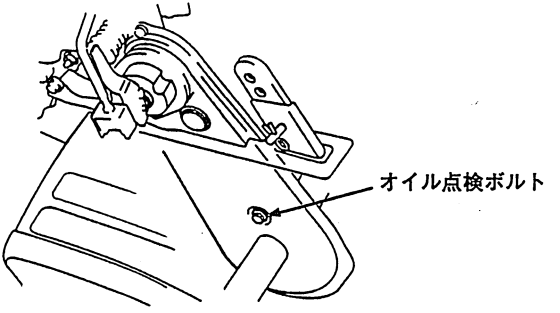




3. オイル給油キャップを差し込み、レベル　ゲージの先端にオイルがつくまで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップを完全に押し込んでください。

ロータリ　オイルの点検

ロータリ爪を着地させ、オイル点検ボルトを外し、オイルがにじみ出てくるか点検します。すくない場合は補給してください。

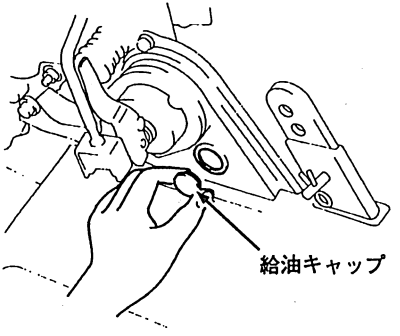


補　給

使用オイル:新しいエンジン　オイル

オイル量: 0.35 ℓ

- 給油キャップを外して、オイル点検ボルトからオイルがにじみ出てくるまで補給してください。



空気清浄器(エア　クリーナ)の点検

空気清浄器カバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。汚れている場合は清掃してください。

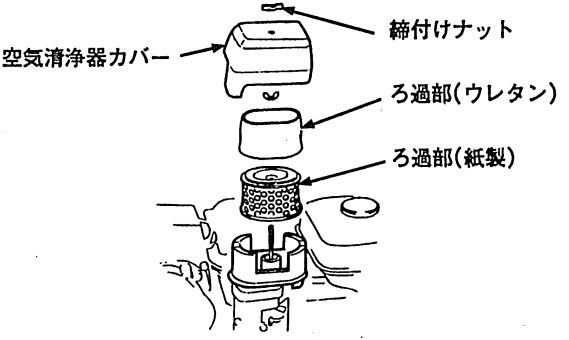
空気清浄器(エア　クリーナ)の清掃

空気清浄器(エア　クリーナ)が目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

〈清掃時期〉 50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は1日1回または10時間毎。

1. 締付けナットをゆるめ、図のように空気清浄器(エア　クリーナ)カバーを取り、ろ過部を取外します。
2. ウレタンのろ過部は中性洗剤を水で薄めて洗い、更に水ですすいでから圧縮空気を吹きつけるか又はよく絞って乾かします。オイルに浸した後固く絞ってから取付けます。
3. 紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。



注意

- **火気厳禁**
- **空気清浄器(エア　クリーナ)カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **空気清浄器(エア　クリーナ)カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け不良をすると、エンジンに悪影響を与える原因になります。**

その他の点検・整備項目

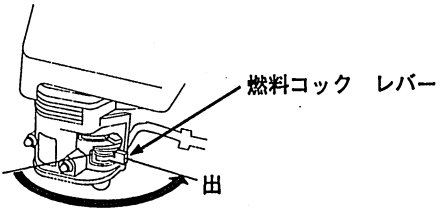
これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

- チェンケース　チェーン……グリース塗布：50時間毎
- 吸入、排気弁すき間……点検・調整：300時間毎又は年１回
- 燃料タンク、燃料ろ過網……清掃：300時間毎又は年１回
- 燃料チューブ……点検：２年毎　交換：４年毎

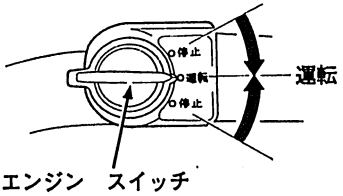
3 エンジンのかけかた

★主クラッチ　レバー“切”変換レバー“N”(中立)ロータリ　クラッチ　レバー“切”になっているか確認してからエンジンをかけてください。

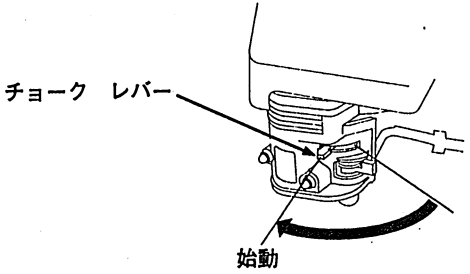
1. 燃料コック　レバーを“出”にします。ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。



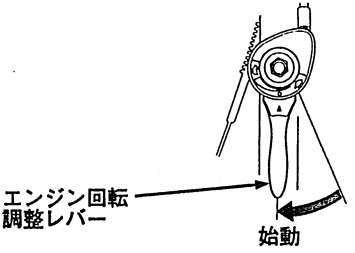
2. エンジン　スイッチを“運転”にします。



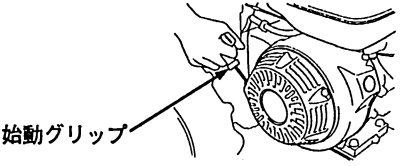
3. 寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョーク　レバーを“始動”の位置にします。



4. エンジン回転調整レバーを“始動”にします。



5. 始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。

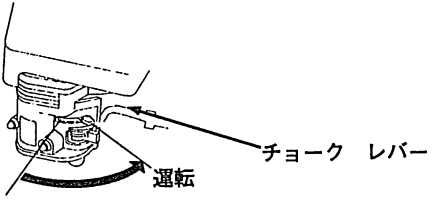


注意

- グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

【始　動】

6. 2～3分間暖機運転を行います。チョーク　レバーを“始動”にした時は、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に“運転”の方向に戻します。



4 運転操作のしかた

★安全な作業を行うために、十分に理解して行ってください。

変速

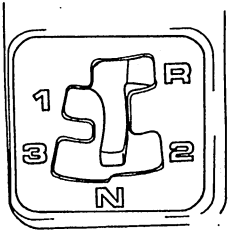
1. 変速レバー

変速表の適応作業を目安に変速位置を選びます。

速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上り等に弊害が出ます。

変速の要領

1) 変速レバーは、必ず主クラッチを切ってから操作します。
2) 変速レバーが作動しにくい時にはいったん"中立"に戻し、主クラッチを入れて少し動かし、主クラッチを切りもう一度操作します。
3) 後進の場合、特に足元に十分注意し低速で運転します。



注意

- クラッチが入った状態で変速するとギヤ鳴きやギヤ折損する場合があります。

変速表

変速位置	車軸回転数(rpm)		適応作業
	FU600	FU800	
1	10.5	9.9	耕うん、培土、移動、トラックへの積込み、圃場への出入
2	25.2	23.8	耕うん、培土、移動
3	59.7	56.4	移動(作業禁止)
R	12.6	11.9	移動、トラックよりの積降ろし、圃場への出入

耕深

2. 尾ソリ

注意

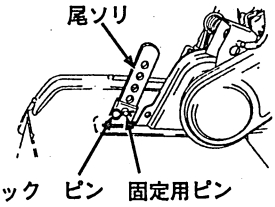
- 尾ソリ及び抵抗羽根の調整は主クラッチ　レバーとロータリ　クラッチ　レバーを"切"の位置に、本機とロータリ爪が完全に停止した状態で行ってください。

〈深さ調整〉

耕うん深さは固定用ピンを外し、尾ソリを上下に移動することによって調整します。

〈調整のしかた〉

尾ソリを引き上げる…耕深が深くなる
尾ソリを押し下げる…耕深が浅くなる
耕うん深さが決まれば、尾ソリの固定用ピン穴を合わせてピンを差し込み、ロック　ピンで固定します。

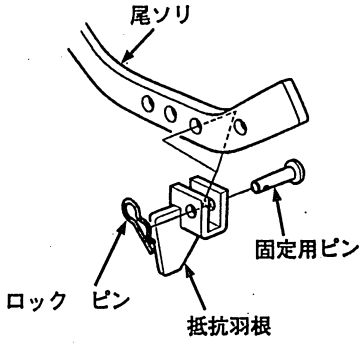


〈土の硬さと抵抗羽根の調整〉

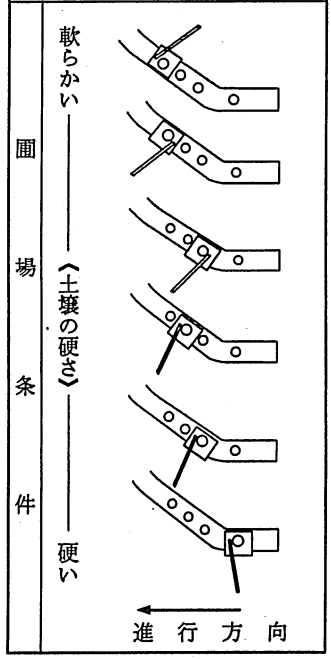
圃場の硬さにより、本機が進まない又は、耕うんできない場合は、抵抗羽根で調整します。

〈調整のしかた〉

抵抗羽根の位置と向きを決め、固定用ピンで抵抗羽根を取付け、ロック　ピンで抜け止めをします。



抵抗羽根の取付け位置と向き



注意

- **ロータリの側板をはずしての耕うんは絶対に行わないでください。**

3.ロータリ　バック牽制

始動時にエンジンを停止して、次の点検を行ってください。

1) 変速レバーをRに入れると、ロータリ　クラッチ　レバーが重くなること、ロータリ　クラッチ　レバーを前方に倒して本機を押し引きしてロータリがまわらないことを確認します。

2) ロータリ　クラッチ　レバーを前方に倒して、変速レバーがRに入らないことを確認します。

異常がある場合は、お買いあげ販売店へお申し付けください。

ロータリ爪の点検・交換

4.ロータリ爪

注意

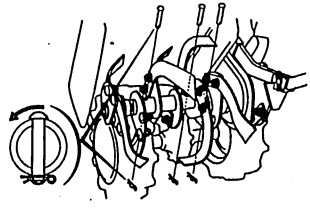
- **点検、交換は平坦な場所でエンジンを止め、プラグ　キャップを外してから行ってください。**
- **手にけがをしないよう厚手の手袋を着用してください。**
- **万一の落下にそなえて、ロータリ爪軸の下に木の台などを置いてください。**

1) ロータリ爪の損傷、曲がり、ガタがないか点検してください。もし異常があったときは締付け、または交換してください。

2) ロータリ爪軸の取付けピンに脱落、変形がないか点検してください。必要であれば新しいピンとロック　ピンを取付けてください。

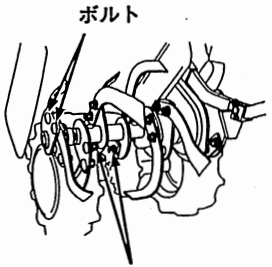
注意

- **ロータリ爪はホンダ純正部品を使用してください。**
- **ピン抜け防止のためロータリ回転方向と逆方向からロック　ピンを差し込んでください。**



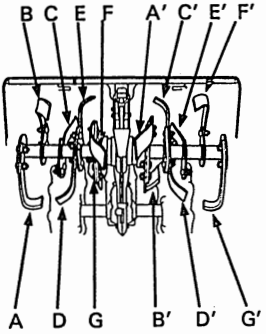
ロータリ爪のセット (FU600)

ボルト/ナットの方向
(A/GとB'/G'は外向き、他は全て内向き)



爪軸のR(右側)とL(左側)
(プレートに爪軸のR、Lが打刻)

ロータリ爪の位置
(D/GとB'/D'は外向き、他は全て内向き)

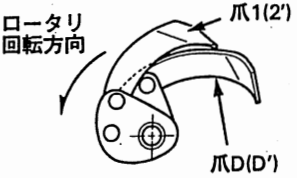


爪軸の組付
(A、G'が近い角度〔約26° 違い〕)

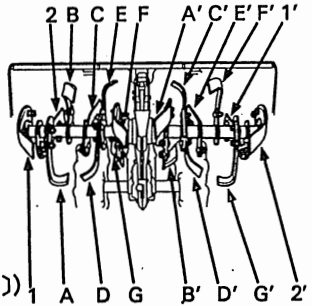
ロータリ延長爪軸のセット (FU800)

1) 延長爪L及び延長爪Rにそれぞれ、内向きに爪(1、2、1'、2')を取付ける。

2) 延長爪Lは爪1と爪Dが横から見て近い角度(約40°)になる様にセットする。
同様に延長爪Rも爪2'と爪D'が横から見て近い角度になる様にセットする。

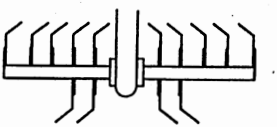
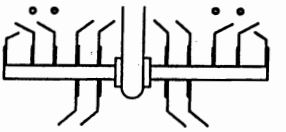
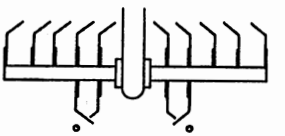
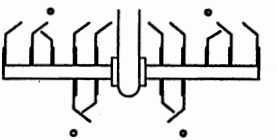


爪軸の組付
(1と2'／DとD'が近い角度〔約25° 違い〕)



◎ロータリ爪配列

ロータリの爪配列(爪の向き)は作業内容に応じて工夫すると効率のよい作業ができます。下記は標準的な例です。作業の目安にしてください。

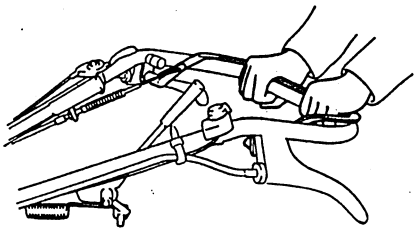
作業内容	使用アタッチメント	ロータリ爪配列
一般耕うん	―――	 平面耕 (外向き爪は黄色のペイントの位置)
溝切り 畦立	培土器	 外盛耕
幅広 畦立	―――	 内盛耕
石コロの多い圃場、爪軸に石が噛み込む場合	―――	 内盛耕

＊◎印は平面耕と向きの異なる爪

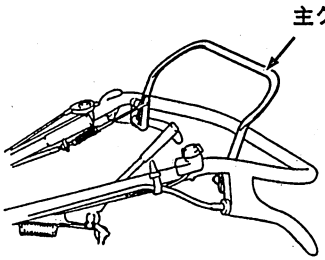
運転

5. 主クラッチ　レバー

クラッチ　レバーを操作することにより、本機の走行及び停止が行えます。
レバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。
作業する時には、ロータリ　クラッチ　レバーを"入"にして主クラッチ　レバーを握ります。



レバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。



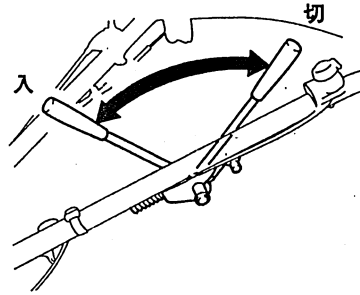
- クラッチ　レバーの操作は、静か(スムーズ)に行います。
- 急激な操作を行うと本機が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

6.ロータリ　クラッチ　レバー

ロータリ　クラッチの操作は、主クラッチを"切"の状態で行ってください。

レバーを手前に引く－クラッチ"切"－動力切れる

レバーを前方に倒す－クラッチ"入"－動力伝わる

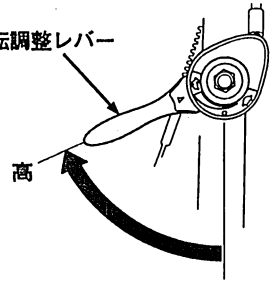


注意

- 主クラッチが入った状態では、ギヤ鳴き、ロータリ　クラッチ切れ不良、ギヤの破損等になる場合があります。

7.エンジン回転調整レバー

レバーを"高"方向にまわし、エンジン回転を上げます。



8.耕うん作業のしかた

●硬い場所の耕うん

抵抗棒は一杯に下げて作業してください。

硬い圃場での耕うんは、一度に深く耕うんしないで2～3回掛けしてください。無理にハンドルを押しつけないでください。

注意

- **一度に深く耕やすと本機が急に前に飛び出す事があります。**
- **抵抗羽根は必ず取付けて耕うんしてください。**

●旋回

主クラッチとロータリ　クラッチを切り、エンジン回転を低速にします。主クラッチ　レバーを握り、操向クラッチ　レバー付は操向クラッチ　レバーを握ってゆっくりと旋回してください。

注意

- **主クラッチ　レバーを放さないで、ロータリ　クラッチ　レバーを操作すると異音がしたり、本機が故障する原因となります。**

●車速

特に軟らかい圃場では、牽引力が不足し前進1速で前に進まないことがあります。その場合には前進2速で耕うんするか、抵抗羽根をはずして耕うんしてください。

但し、運転、取扱いになれるまでは前進1速で耕うんし、前に進みにくい場合は、ハンドルを少し持ち上げて耕うんしてください。

9. トラックの積込み、積降し

トラックの積込み、積降しはまわりに危険物のない平坦な場所を選び、運転者は誘導する補助者と協力して下記の事に注意し慎重に行ってください。

1) エンジン回転調整レバーを低にします。

2) 積込みは変速レバーを前進1速にします。

3) 積降しは変速レバーを後進Rにします。

注意

- **トラックの積込み、積降し中、アユミ板の上でクラッチ　レバー、チェンジレバーの操作は絶対に行わないでください。**

- アユミ板は車輪より広いものを使用し、左右の車輪がアユミ板の中央に位置するようにセットしてください。
- アユミ板は本機の重量に十分耐えられる強度のあるもので、トラック荷台高さの4倍以上の長さがあり、滑り止めをしたものを使用してください。
- 車載運搬時には燃料コックレバーを"止"に合わせてください。

旋回

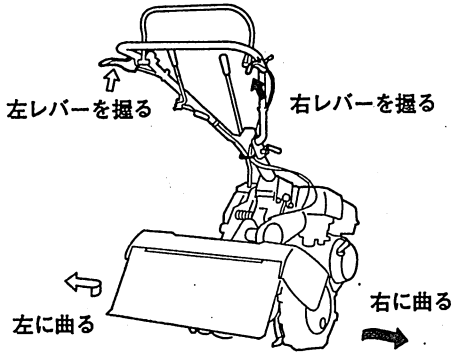
10. 操向クラッチ　レバー　(FU600Lタイプ、FU800)

旋回しようとする方向のレバーを握ると旋回します。

操作クラッチの機能

右クラッチ　レバーを握る→右に曲る

左クラッチ　レバーを握る→左に曲る



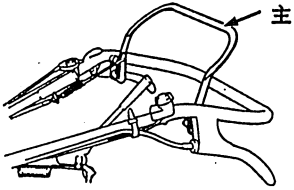
注意

- **高速運転時、操向クラッチ　レバーを操作しないでください。**
  高速時操作すると、本機が急旋回し、運転者が飛ばされることがあり大変危険です。
- **登り坂、下り坂では操向クラッチ　レバーを操作しないでください。**
  登り坂、下り坂で操向クラッチ　レバーを操作すると思いがけない方向に急旋回したり、急降下したりして大変危険です。

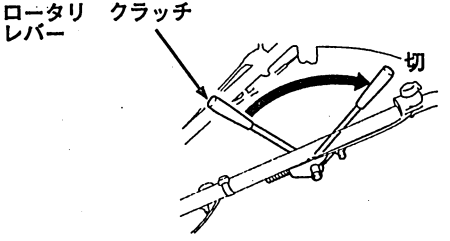
FU600タイプは旋回しやすくするためにホイールのピンを長穴に通して使用してください。傾斜地で直進性を必要とする場合はホイールのピンを丸穴にピンを通して使用してください。

5 エンジンのとめかた

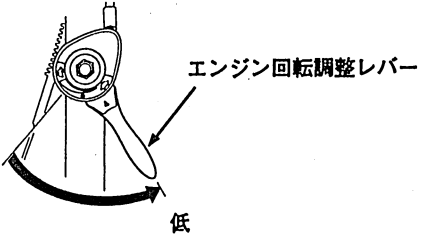
1. 主クラッチ　レバーを放し、変速レバーを"N"(中立)にします。



2. ロータリ　クラッチ　レバーを"切"にします。



3. エンジン回転調整レバーを"低"の位置に戻します。

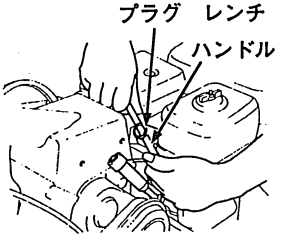


4. エンジン　スイッチを"停止"にします。
5. 燃料コック　レバーを"止"にします。

6 定期手入れを行いましょう

点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。



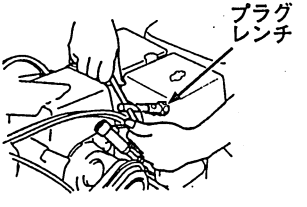
(FU600)

〈清掃時期〉 100時間運転毎

1.**〈清掃のしかた〉**
プラグ　レンチで点火プラグを取外します。

- プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

2. プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。



(FU800)

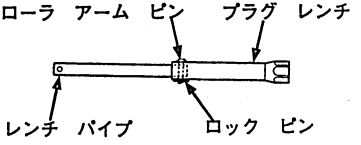
〈調　整〉

- 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

すき間：0.7—0.8 mm



〈標準プラグ〉
BP5ES(NGK)
W16EP-U(NIPPONDENSO)



(FU800はレンチ　パイプを継いで使用します)

注意

- エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
- プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。

燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

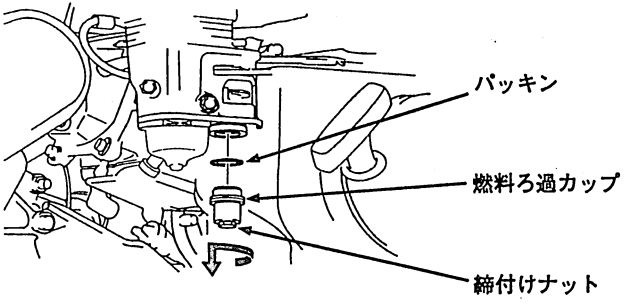
〈清掃時期〉

100時間運転毎

1. 燃料コック　レバーを"止"にします。
2. 締付けナットをゆるめ燃料ろ過カップを取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗油でよく洗い底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、ガソリン漏れのないよう締付けナットを確実に締付けてください。

注意

- **燃料ろ過カップ清掃中は火気厳禁。**

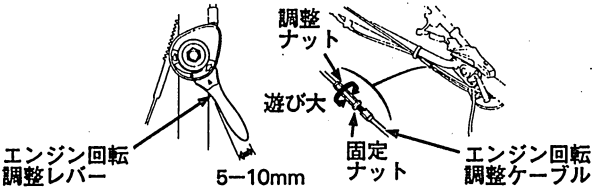


エンジン回転調整ワイヤの調整

エンジン回転調整ワイヤの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

〈調整時期〉 300時間運転毎または1年1回

1. エンジン回転調整レバーの遊びが、先端で下記寸法になるように調整します。
   5—10 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

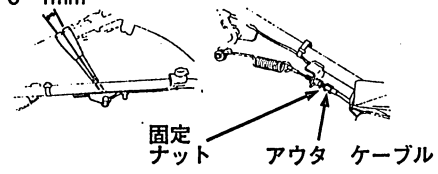


ロータリ　クラッチ　ケーブルの調整

ロータリ　クラッチ　ケーブルの調整が完全でないと、ロータリ　クラッチの切れが悪くなります。

〈調整時期〉 初回：20時間目　以後：100時間運転毎

1. ロータリ　クラッチ　レバーを手前に戻した時、クラッチ"切"の状態でレバー先端の遊びが下記寸法になるように調整します。
   0— 1 mm
2. 調整は固定ナットをゆるめアウタ　ケーブルを前後に移動させて行います。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



操向クラッチ　ワイヤの調整（FU600Lタイプ、FU800）

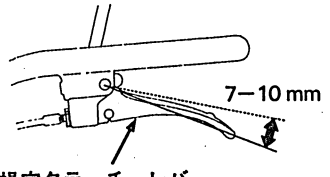
操向クラッチ　ワイヤの調整が完全でないと操向クラッチの切れが悪くなります。

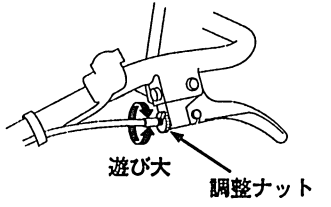
〈調整時期〉

300時間運転毎または1年1回

〈調整のしかた〉

1. 操向クラッチ　レバーの遊びがレバー先端で下記寸法になるように、左右同じ要領で調整します。
   7—10 mm
2. 調整は、調整ナットをまわして行います。





駆動ベルトの調整

ベルトがすべると動力を損失するばかりでなく、ベルトの傷みがいちじるしく早くなります。

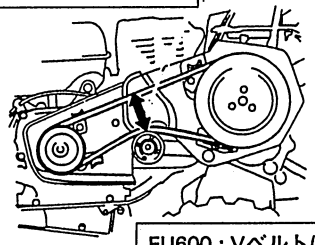
〈調整時期〉

初回：20時間目、以後：100時間運転毎

1. 主クラッチ　ワイヤを調整します。（29頁）
2. ベルト　カバーを取外します。
3. 主クラッチ　レバーを"入"にした状態で、テンショナ部のベルト間隔が下記寸法になるように調整します。
   FU600：65—70 mm
   FU800：52—57 mm
4. 調整はエンジン　スティ締付けボルト、エンジン締付けボルトをゆるめ、エンジンを前後に動かして行います。

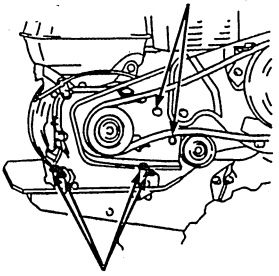
5. 調整後、ボルトは確実に締付けてください。

FU600 : 65−70 mm
FU800 : 52−57 mm



FU600 : Vベルト(SB40)
FU800 : Vベルト(SB44)

エンジン　ステー
締め付けボルト



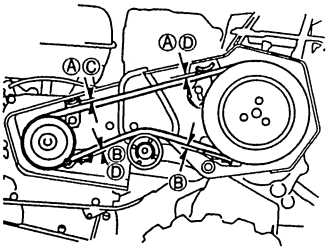
エンジン締め付けボルト

注意

- **調整時エンジン側プーリの面と変速機側プーリの面が一直線になるように合わせてください。合っていないとベルト外れ及びベルトが早く傷みます。**

6. ベルトとベルト　ストッパのすき間を図のように調整します。

FU800		FU600	
(A)	1.0−3.0 mm	(C)	3.0−4.0 mm
(B)	3.0−5.0 mm	(D)	2.0−4.0 mm



7. 調整はストッパ締付けボルトをゆるめ、ストッパを上下に動かして行います。
8. 調整後、ボルトは確実に締付けてください。
9. ベルト　カバーを取付けます。

注意

- **ベルト　カバーを必ず取付けてください。取付けないで作業すると衣類が巻き込み、思わぬ事故を招くことがあります。**

主クラッチ　ワイヤの調整

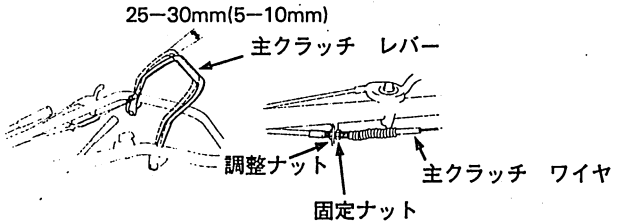
主クラッチ　ワイヤの調整が完全でないとベルトがすべります。

〈調整時期〉 初回：20時間目、以後：100時間運転毎

1. 主クラッチ　レバーを放した状態でレバー先端の遊びを下記寸法に調整します。

   FU600：25—30 mm　　FU800：5—10 mm

2. 調整は固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

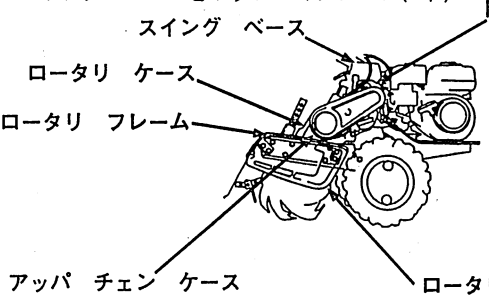


ロータリ取付部の締付け点検

締付け箇所のゆるみを点検します。ゆるみがあれば増締めをしてください。

締付け箇所

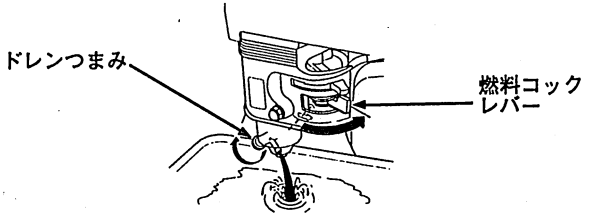
- アッパ　チェン　ケースとロータリ　ケース(3本)
- トランスミッションとロータリ　フレーム(2本)
- ロータリ　カバーとロータリ　フレーム(4本)
- スイング　ベースとトランスミッション(2本)



7 長期間使用しない時の手入れ

★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

1. エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐ為点火プラグ　キャップをプラグから取外してください。
2. ロータリミニ耕うん機各部の清掃を行います。
3. 空気清浄器を清掃します。
4. 燃料コック　レバーを"出"にあわせ、気化器のドレンつまみ(ガソリン排出用つまみ)を1～2回転ゆるめ、気化器内及び燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは適切な容器で受けてください。



5. 完全にガソリンが抜けたらドレンつまみを確実に締付け、燃料コック　レバーを"止"にします。
6. ダストガード　カバーを外し、始動装置部のホコリ、ゴミを除去します。
7. 始動グリップを重くなるまで引きます。
   (エンジン　バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)
   ロータリ　クラッチ　レバーを"切"にします。
8. タイヤ空気圧を少し多くし(1.4～1.5 kg/cm² 程度)、湿気、ホコリの少ないと
9. ころに保管します。

注意

- **燃料を抜く時は火気厳禁。**
- **風通しの良い場所で行ってください。**
- **抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。**
- **ドレンつまみがゆるんでいると燃料がもれ、引火する可能性があります。**

8 故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことがティラーを長持ちさせる秘けつです。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

- ガソリンはありますか?
- 点火プラグから火花が出ますか?

次の点検をする前に、エンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またウエスで完全にふきとってから行ってください。

- プラグを取外し、プラグ　キャップに取付けプラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ　キャップ以外には触れないでください。)、エンジン　スイッチを"運転"の位置にして、始動グリップを強く引きます。この時プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

注意

- **この点検は風通しのよい場所で行ってください。**

- 始動方法は、取扱説明書通りですか?

ロータリ　クラッチ、操向クラッチ、主クラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう。

- クラッチ　ワイヤの調整方法が取扱説明書通りですか?(26頁、27頁、29頁)

少し時間をおいて
もう一度確めましょう

故障の修理
お買いあげ販売店へお申しつけください。

9 主　要　諸　元

名称		FU600		FU800
型式		K	L	K
区分		FZAV		FZAW
機体寸法	全長	1,510 mm		1,470 mm
	全幅	560 mm	630 mm	705 mm
	全高	1,140 mm		1,130 mm
	輪距	360 mm		
装備重量		94 kg	95 kg	126 kg
エンジン	名称	GX160K1		GX240K1
	形式	空冷4サイクルエンジン(OHV)		
	総排気量	163 cm³		242 cm³
	定格出力/回転速度	4.0 ps/3,600 rpm		5.5 ps/3,400 rpm
	使用燃料	無鉛ガソリン		
	燃料タンク容量	2.6 ℓ		4.5 ℓ
	点火方式	トランジスタ　マグネト点火		
	始動方式	リコイル　スタータ		
タイヤ		3.50−7		
主クラッチ方式		ベルト　テンション		
操向クラッチ		———	レバー式	レバー式
変速段数	前進	3段		
	後進	1段		
ロータリ	駆動方式	センタードライブ		
	耕幅	500 mm		620 mm
安全鑑定適合番号		15010		15110

諸元は改良のため予告なく変更することがあります、ご了承ください。

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、お買上げいただいた販売店へお申しつけください。